

いこいのみぎわ
天路歷程 ジョン・パニヤン

第38話

2022年8月7日～8月13日 各家庭でのディボーション用テキスト

そのとき彼らはお互いに顔を見合わせて立っていたが、基督者に答えるすべを持たなかった。有望者も基督者の答えの正しいことを認めた。こうして皆すっかり黙り込んでしまった。私心氏とその道連れはわざとぐずぐずして遅れた。基督者と有望者が先になるためである。そのとき基督者は仲間に行った、この連中が人間の宣告の前に立つことができないなら、神の宣告に対してはどうするつもりでしょう。また「土の器」【Ⅱコリ4:7】である人間にあしらわれて黙るくらいなら、焼き尽くす火の焰によって叱責される時はどうするつもりでしょう。

それから基督者と有望者は再び彼らより先に立って、ついに安楽が原という気持のよい原に達して、非常に満足して進んで行った。しかしその原はごく狭かったので、じきに越えてしまった。さてその原の向こう側には富が丘という小さな丘があり、そこには銀鉢があった。以前この道を通った者が物珍しさの余り立ち寄って見ようとした。その坑の縁に近づき過ぎると、足下の地面が見かけによらずもろくて、くずれ落ち、彼は死んでしまった。中にはまたそこで不具になって、死ぬまでもとの体にならなかった者もある。

その時私が夢で見ていると、道路より少し離れた所で、その銀鉢に向かって（紳士風の）デマスが立ち、通行人に見においでと呼びかけていた。彼は基督者とその友に言った、おおい、こっちに回って来れば、いいものを見せてあげるよ。

基督者 何ですか、寄り道して見にゆくほどの価値のある物というのは。

デマス ここに銀鉢があって、宝を得ようと掘っている者がいるんです。もし来てくれればちょっとした骨折りで、裕福になれますよ。

すると有望者が見に行こうではありませんかと言った。私はご免です、と基督者は言った、以前このことを聞いたことがあります。またそこで沢山の人が殺されたということも。その上、財宝というのはそれを求める人々へのわなです。それは巡礼の邪魔をしますからね。それから基督者はデマスに呼びかけて言った、そこは危険ではありませんか。多くの人々の巡礼を妨げたのではないですか。

デマス 大して危険ではありませんよ、不注意な者は別ですがね。（そう言いながら彼は同時に顔をあからめた。）

そのとき基督者は有望者に言った、一步もわきにそれないようにして、いつも自分の道が続けて行きましょう。

有望者 私心者がやって来て、われわれと同じような誘惑を受けたら、必ずあちらへ寄り道して見に行きますよ。

基督者 それはむろんですとも。彼の主義からしてあちらへ行くようになります。そして九分九厘まではそこで死ぬでしょう。

そのときデマスは再び呼んで言った、どうです、やって来て見ませんか。

すると基督者ははっきり答えて言った、デマスよ、お前はこの街道の主の正しい道の敵である。お前自身わき道にそれたために、すでに陛下の裁判官の一人により有罪の宣告を受けている。【Ⅱテモ 4:10】なぜ私たちをも引き入れて同じ宣告を受けさせようとするか。その上、もし私たちがいやしくも道にはずれるなら、主なる王は必ずそれを聞かれて、私たちが臆せずそのみ前に立とうとするその場で、私たちを辱しめられるであろう。

デマスは再び叫んで言った、私も君ら兄弟の一人です。もっとゆっくりしていてくれるなら、自分もいっしょに行きたいものですが。

そのとき基督者は言った、君の名は何と言うのかね、以前私が呼んだとおりはないのでですか。

デマス そうです、私の名はデマスです。アブラハムの子です。

基督者 私は君を知っている。ゲハジは君の曾祖父で、ユダは君の父であった。

【Ⅱ列王 5:20、マタ 26:14-15、27:3-5】そして君は彼らの足跡に従って来たのだ。君のやることは極悪非道の行ないだ。君の父は反逆者として絞罪に処せられた。君もそれに劣らぬ報いを受けるのは当然だ。きっと覚えておくがよい。私たちが王の所に行ったら、君のこのような行ないを報告申し上げるということを。こう言って彼らは進んで行った。

この時、すでに私心者とその道連れは再び後に見えていたが、招かれるとすぐにデマスの所にやって来た。ところで、彼らが坑の縁から覗き込んでそのために坑の中に落ち込んでしまったのか、銀を掘りに下ったのか、それとも絶えず湧き上がる毒気にあてられて底で窒息してしまったのか、その辺のことは確かでない。私が気づいたことは、彼らがもう二度とその道では見られなかったことである。

その時基督者は歌った、

私心者と銀のデマスとは気が合って、
一人が呼べば相手は走り、
富の分け前を得ようとする。かくて二人は、
この世にとどまって、先には進まない。

さて私が見ていると、ちょうどこの原の向こう側、街道のすぐそばに古い碑が立っている所に巡礼者たちは来た。その碑を見ると、形が奇妙なので二人共注意を引かれた。それはまるで女の人が柱の形に変わったように思われたからである。



巡礼者たちは不思議な記念碑を見る

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい